

科目区分：学校教育実践コース（家政教育専修），生活環境コース

授業科目名：食品学演習（2015）

## 食品に関する欧文論文輪講および論文紹介の実践（5年目）

家政教育講座 岡本威明

### 1. 授業の概要とねらい

授業科目「食品学演習」は，食品に関する論文の輪読および発表をすることで，生活者として必要な食品に関する基礎知識を習得し，また最新の論文を選択・発表し，質疑応答をするための能力を身につけることである。また，卒業研究に繋がる講義を目指すことをねらいとした。さらに，食品関連の工場見学を実施し，製造，販売，研究等の流れを体感させる。

### 2. 受講生について

受講生は3回生家政教育専修より4名，生活環境コースの3回生が8名，国際理解教育コースの3回生が2名登録し，合計14名の受講があった。最後まで受講した学生は，国際理解教育コース2名を除く12名であった。教員個別の授業アンケートは最後の授業時間に実施し，10名分を回収し分析した。

### 3. 今年度授業の取り組み

学生による欧文論文輪読および論文紹介発表を効率良く遂行するために，受講生を2班(A,B)に分けて編成し，下記のスケジュールにて16回の授業を構築した。

第1回 ガイダンス、班分け

第2回～5回 欧文論文輪講（A班）

第6回～7回 論文発表会（B班）

第8回～11回 欧文論文輪講（B班）

第12回～13回 論文発表会（A班）

第14回～15回 アヲハタジャム工場見学およびイチゴジャム作り、万田発酵工場見学)

第16回 欧文論文英訳試験（A,B班）

### 4. 授業アンケートの質問事項

授業アンケートは，記述式（8項目）に分けて行った。

- 1) 欧文論文輪講に関してどうでしたか？
- 2) 各種学会誌から論文を選択し発表した

ことに対し，どのように思いましたか？

3) 他の学生の論文発表を聞いてどのように思いましたか？

4) 2カ所の工場見学はどうでしたか？

5) 本講義内容は，これからの卒業研究に生かすことができそうですか？

**6) 時間外学習時間はどれくらいでしたか？**

7) 食品学演習全体を通しての感想と来年度の講義に向けての改善点を明記して下さい。

### 5. 授業アンケートの結果

#### 1)の質問結果：

・最初はどの訳でもいいかわからず，時間もかかっていたが，理論や基本的な訳し方が分かると以前より和訳しやすくなった。欧文論文を読むことに免疫がついた。

・英語の授業では習うことができない英単語や連語を知ることができ，少しずつ読める様になりました。

・時間をかけて解説有りなら読めるものだなと思った。

#### 2)の質問結果：

・1つの論文をこんなに一生懸命理解しようとしたことは初めてに近いのですが，論文を読むことは新しい知識も増え楽しかったです。

・大変だったが，自分の研究に関する論文を読み他者からの意見ももらえてよかった。

・自分の選択した論文だったので興味をもって取り組むことができた反面，グラフの読み方は難しかった。

#### 3)の質問結果：

・うまく相手に理解してもらうためには，見やすいスライドをつくること，言葉の説明を入れることが大切であると学んだ。

・人によって分かり易い発表とそうでない発表があり，良い部分は真似をし，悪い部分は気をつけようと思った。

・バリエーションが豊かで面白かった。自分の今後の食生活が豊かになりそう。

#### 4)の質問結果：

・アヲハタジャム工場でのジャム作りがとても楽しかった。万田酵素では見たことのないような野菜・果物が見られて面白かった。  
・実際にジャム作りを体験できたことが印象に残りました。二つの場所に行くことができ充実した見学学習となりました。

#### 5)の質問結果：

・人前で時間が定まった中で発表するという緊張感を知ることができた。また、論文の書き方も分かったので生かしていきたい。  
・卒業研究で参考となる論文を読むときなど役立つと思う。  
・特殊な用語や考え方などを知るきっかけとなったので、自分の研究に生かせるところは参考にしたい。

#### 6)の質問結果：

・時間外学習時間に関して、欧文論文に対しての総時間は、最大 20 時間、最小 2-3 時間で、平均 9.7 時間であった。論文発表に対しての総時間は、最大 20 時間、最小 6 時間で、平均 13.5 時間であった。

#### 7)の質問結果：

##### <良かった点>

・欧文論文を読むことや論文紹介など今までのことのないことを経験できた点良かった。  
・欧文論文について読んだり、論文を選択し、発表の準備を行う練習ができて良かった。  
・難しく勉強に時間もかかったが、レベルアップできた実感がしてとてもよかった。  
・今後の生活にも生かしていくことができるような発表技術、読解技術も身に付く事ができました。  
・欧文論文はなかなか上手く訳すことができず難しかったですが生活に役立つ内容を多く知れて良かったです。工場見学が非常に楽しく来年もジャム工場に行くべきだと思います。  
・最初はとても重たい授業であると思った

が、今までやったことがないものをやれる授業だったので貴重なものとなった。

##### <反省点>

・欧文論文の内容を最後までまとめて通し読みしたかった。  
・発表のベルを鳴らす時間が発表する回ごとにバラバラだったので揃えて欲しかった。

#### 6.成績評価に関して

欧文論文輪講に対する予習や欧文の発音・和訳発表・和訳試験ならびに論文紹介に対する予習や発表等を総合的に評価して成績とした。

「秀」の評価を得た学生が全体の 67%であり、「優」の評価を得た学生は全体の 33%であった。全体的に非常に講義には真面目に取り組んでおり成績もよく、欠席も少なかった。平均点は、91.3 点と高評価であった。

#### 7.総括

今年度は履修者が 12 名であったため、6 名と 6 名の 2 班に分けて、欧文論文輪講と論文読解・発表を交互に遂行した。3 回生に対し、欧文論文を輪講するという挑戦的な講義を試みているが、時間外学習時間の調査結果から、学生も予習に多くの時間(平均 9.7 時間)を割いており、講義時には何の支障も無く輪講が進められた。しかし、二つの班の間で欧文論文輪講の進行スピードに今年も差が出た。その理由として、専門的な論文内容そのものの読解能力に差があり、さらに班を形成したことにより、そのことが強く表面化したものと思われる。他方、3 回生後期には、卒業研究を見据えた講義の構築も必要であり、その実現可能性を確認することができた。また、論文発表においても、時間外学習時間の調査結果(平均 13.5 時間)からも推察できる通り、非常に完成度が高く、学生間で活発な質疑応答が成された。本授業が 4 回生での卒業研究に生かされることを期待している。

最後に、今年は食品工場見学として、2 カ所訪問し、ジャム作り体験も取り入れた。実際に活動を伴う実習は非常に好評であったので、来年度も是非、取り入れていきたい。